

大学とNPO・ボランティア等との連携に関する調査結果

<調査対象：県内61大学 回答：14大学（うち12大学が事例等あり）>

1 大学におけるNPO・ボランティア等を推進する組織

大学名	組織の名称	設置年月	体制	内容
埼玉大学	共生社会研究センター	H13.10	常勤1人、非常勤2人	NGO・NPO活動をはじめとする多様な市民活動の発行資料＝「人びとの記録」を収集・所蔵し、一般公開している。
聖学院大学	(特)コミュニティ活動支援センター	H13.4	事務局：非常勤1人、会員104人（うち、大学教職員37人、学生27人）	学校法人聖学院が中心になって設立し、地域住民の参加を得て、ホタルプロジェクト、野菜づくりなどを行うとともに、まちづくり協議会のメンバーとして各種地域活動に参画。
文京学院大学	地域連携センター	H17.5	常勤1人、委員（学生実行委員61人、地域委員8人、運営委員12人）	福祉サービスを必要とする地域の人とボランティア活動に参加したい学生をつなぐとともに、地域のニーズを調査し、独自のサービスを企画・展開し、教育へと結びつける。
立教大学	立教大学ボランティアセンター	H15.6	専任1人、常勤嘱託（コーディネーター）1人、アルバイト1人	学生及び立教学院関係者のボランティア活動への興味・関心に対し、情報提供並びに活動のバックアップのための企画・運営、技術の習得講習会の開催をする。地域との交流も図り、ボランティアに関する相談に応える。
立正大学	社会福祉学部ボランティア活動推進センター	H13.4	非常勤1人、院生バイト2人、担当教員3人	学生のボランティア活動への興味・関心に対し、情報を提供し、ボランティア活動のバックアップをする推進機関。また、地域社会にも目を向け、地域社会と学生との交流の活性化を図る機関。
立正大学	立正大学大学院地球環境科学研究科オープンリサーチセンター	H14.4	非常勤6人、その他（ポスドク4人、院生バイト20人、外部研究員20人）、担当教員15人	大学の研究施設、ノウハウを地域に公開し、社会貢献を行う。
立正大学	(特)地域安全マップ協会	H19.12		顧問として、小宮信夫（立正大学文学部社会学科教授）が参加。全国で行われる地域安全マップの講習会を行う。

大学名	組織の名称	設置年月	体制	内容
立正大学	(特)GIS パートナーシップ	H15.6	150名	代表理事として後藤真太郎（立正大学 地球環境科学部 環境システム学科教授（環境管理・情報コース））、会員として酒井聡一（立正大学 地球環境科学部 環境システム学科 助手（地球・地域環境コース））が参加。GIS 導入支援、GIS 普及のための催事の実施等を行う。
立正大学	(特)日本オオカミ協会	H14.4	200名	須田知樹（立正大学 地球環境科学部 環境システム学科講師（地球地域・環境コース））が理事として参加。 ●オオカミについての科学的で正しい情報を普及し、オオカミの保護を進める。 ●オオカミが生息できるようなバランスの取れた森林生態系を保護し復活させる。 ●絶滅した日本のオオカミを復活させる。
立正大学	高麗川ふるさとの会	H14.4	140名	理事として後藤真太郎（立正大学 地球環境科学部 環境システム学科教授（環境管理・情報コース））、会員として渡辺泰徳（立正大学 地球環境科学部 環境システム学科 教授（地球・地域環境コース））が参加。学生参加による浅羽ビオトープの管理・催事（環境観察会・各種調査）での大学との連携支援。
立正大学	(特)IKG コミュニティー	H16.10	20名	理事として後藤真太郎（立正大学 地球環境科学部 環境システム学科教授（環境管理・情報コース））が参加。地域の産学官民の連携を支援する。
早稲田大学	早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）	H14.4	約 20名	本学名誉博士である日本画家の平山郁夫氏の国際的社会的貢献活動とその精神を継承・発展させるために、教育研究活動およびボランティア活動を広く国内外で展開し、かつ、支援することによって、地域社会および国際社会へ貢献することを目的としている

2 大学とNPO・ボランティア等とのイベント・事業等

大学名	イベント等名称	内容	担当組織等	NPO等名
埼玉大学	NPOインターンシップ制度	平成17年より、テーマ教育プログラム「社会と出会う」の一科目として、夏休みの10日間(1日6時間=計60時間)、50名の学生を県内のNPOにインターンシップ生として派遣している。	共生社会研究センター	(特)さわやか福祉の会きらりびとみやしろ・(特)ふじみの国際交流センターほか9団体
埼玉大学	「アジア人材資金構想」の高度実践留学生育成事業	日本企業就職に向けた補完プログラム(2年間)の実施	国際交流支援室	(特)産学連携教育日本フォーラム(WIL)
芝浦工業大学	こども夢未来フェスティバル2007	子育て支援を目的とする(特)彩の子ネットワークと連携し、芝浦工大にて、子育て支援や交流等を目的とするフェスティバルを開催した。	学事課及び環境システム学科桑田仁	(特)彩の子ネットワーク
芝浦工業大学	見沼区ロボット教室	学生ロボットサークル「からくり」が主催し、地域の小学生にロボット工作を教えるイベントを開催している。	学事部学生課太田及び機械制御システム学科古川修	学生ロボットサークル「からくり」
聖学院大学	ほたる祭り	学生中心で実行委員会を作り、飼育しているホタルの生態を紹介するクイズや寸劇、パワーポイントでの映像紹介を行い、その後、野外が暗くなった頃からは、ホタルの飛ぶ姿を鑑賞してもらうというイベント。幼児から高齢者まで、幅広い地域の方々に喜ばれている。(毎年6月下旬開催)	ほたる祭り実行委員会	コミュニティ活動支援センター
聖学院大学	クリーンキャンペーン	宮原駅西口から聖学院大学に向けての清掃	コミュニティ活動支援センター、学友会	まちづくり協議会クローバー
聖学院大学	グリーンフェスタ	さいたま市北区の三貫清水緑地の新緑の中で行う野点と演奏会	コミュニティ活動支援センター、学友会	まちづくり協議会クローバー
聖学院大学	ふれあいフェスタ in 宮原	宮原駅西口での各種パフォーマンス、模擬店、フリーマーケット、障害者体験などのイベント(毎年10月開催)	コミュニティ活動支援センター、学友会	宮原西口商工会

大学名	イベント等名称	内容	担当組織等	NPO 等名
聖学院大学	小学生絵画展	宮原駅西口コンコースに、まちに関する小学生の絵を展示。ふれあいフェスタ in 宮原で表彰。	コミュニティ活動支援センター、学友会	まちづくり協議会クローバー
聖学院大学	竹林清掃と竹炭づくり	竹林清掃の際に切り出した竹を活用し、大学の片隅で炭焼きを行い、福祉団体が炭を製品化、販売	コミュニティ活動支援センター、学友会	まちづくり協議会クローバー
聖学院大学	逆川整備計画作成	川歩きを踏まえて整備計画を作成し、さいたま市に提出	コミュニティ活動支援センター、学友会	まちづくり協議会クローバー
聖学院大学	ドミノ倒し	大学の体育館でのドミノ倒し	コミュニティ活動支援センター	上尾市育児ネット
聖学院大学	大谷そば作り農園	参加者が栽培、収穫したそばで、そば打ちを行い試食	コミュニティ活動支援センター	戸崎まちづくり協議会
獨協大学	学生による活動	白鷺会（献血活動、児童館での活動） Deco（Dokkyo Environmental Cooperating Organization の略、環境問題・国際協力等の活動） ハジメの一步（学校での学習協力等）	学友会総務部長室事務課	日本赤十字社、児童館等
獨協大学	そうか産学行連携事業	草加瀬崎地区の活性化を図り実態調査を実施。調査結果に基づき、今後の検討資料として「瀬崎地区まちづくり調査事業報告書」を作成し、提言、提案を行った。	エクステンションセンター、経済学部 高松和幸	草加商工会議所、草加市
獨協大学	全国都市再生まちづくり会議2006	日本各地のまちづくりを活性化することを目的に創設された「全国都市再生まちづくり会議」に出展。埼玉県東部での地域との連携を報告し、大学連携部門賞を受賞した。	エクステンションセンター、経済学部 倉橋透 高松和幸 浜本光紹	草加市など
獨協大学	そうか市民自治ゼミナール	行政や民間の専門家を招いて、地域通貨や生ごみを活用したバイオマスエネルギーなど、近年関心の高まっている話題について、獨協大学を会場として計5回、ゼミナール形式にて実施	エクステンションセンター・経済学部 高松和幸	内閣府、草加市
獨協大学	獨協大学・草加市共同研究助成	獨協大学と草加市が互いに連携・協力して、豊かな地域社会を創るための地域研究のプロジェクト事業。研究期間は2年間。 平成18～19年度のテーマは「草加市内のNPOの成果、課題及び草加市との協働のあり方についての研究」。	総務課、経済学部 倉橋透（代表）	草加市総合政策課

大学名	イベント等名称	内容	担当組織等	NPO 等名
獨協大学	獨協大学・近隣町会自治会懇談会	平成 14 年度より、近隣町会自治会の住民を大学に招いて本学の近況を報告し、併せて大学に対する意見や要望などを聞く会を開催している。	総務課	獨協大学近隣の 6 町会自治会
獨協大学	子どもにやさしいまちづくりワークショップ	子どもを対象に、草加市役所の協力を得て市役所探険を行い、子どもたちがどこを探険したいか、何を聞きたいかを考え、それを実践し、成果をまとめて市長に報告するワークショップを実施。地域の複数の NPO から運営の協力を得る。	獨協大学地域と子どもリーガルサービスセンター	草加市内の複数の NPO
獨協大学	草加市地域省エネルギービジョン策定事業	公共施設における設計・維持管理に係るエネルギーの削減に関する調査、市内の大規模な開発・建て替え・改修事業等における地域省エネの調査、市内にある大学との連携による省エネモデルの可能性に係る調査、その他地域における省エネモデル事業の可能性に係る調査。	環境共生研究所・所長 犬井正	草加市
獨協大学	シンポジウム「ポスト：ベッドタウンー地域と大学とともにめざす「知」の統合」	自治体関係者、NPO 代表をパネリストに向かえ、それぞれの持ち場から①ベッドタウンの現状と課題、②課題解決の方向とそれを実行する上での問題点、③大学に期待することについて発表していただき、ディスカッションを行なった。	地域総合研究所・所長 雨宮昭一	草加市、越谷 NPO センター
日本大学	コミュニティシアター@ところざわ	地域と密着した演劇企画の実践。2001 年より（毎年 1 回実施、継続中。）	演劇学科生・熊谷保宏	T I S パートナーシップ、井筒屋町造商店ほか
日本大学	COM ART + !!	埼玉県立近代美術館との共催による芸術作品のフリーマーケット。2006、2007 年に実施。	演劇学科生有志、熊谷保宏	ART FANS (NPO)、スキッツ
日本大学	ドラマの時間	保育園児に対するドラマ活動の提供。2007 年より（隔週実施、継続中）	演劇学科在学生及び卒業生有志、熊谷保宏	(特) 子育てネット、スキッツ

大学名	イベント等名称	内容	担当組織等	NPO 等名
日本工業大学	共同ソフトウェア開発	(特)さわやか福祉の会きらりびとみやしろの助け合い活動に係る会員管理・活動管理に関するトータルシステムの開発を情報工学科 3 年次実験事業「情報工学総合実験」において無償で実施した。現在、実稼動システムとして運用中である。	情報工学科 大木幹男	(特)さわやか福祉の会きらりびとみやしろ
日本工業大学	ネットワーク構築工房	小・中学校や市町村などの公的な機関でのネットワーク構築支援に関するボランティアを工房教育の一環で行っている。	情報工学科 矢部正行	大学の近隣の小・中学校 5ヶ所程度
日本工業大学	情報活用ボランティア	授業の一環として、10年前より地域の小・中学校や病院などの公的機関で情報活用支援に関するボランティアを行っている。	情報工学科 片山茂友	大学の近隣の小・中学校及び病院 40ヶ所程度
文教大学	まちアートプロジェクトー越谷2007ー	アート作品を越谷のいろいろな場所に展示し、その作品を通じて住民との交流を生み出す。(2007/10/21-12/3)	まちアートプロジェクト実行委員会	北越谷商店有志・大袋商店有志・越谷市商工会等
文京学院大学	学生実行委員による活動(まるびいの森、まなびの教室、ハウムクーハン、ピース☆)	学生実行委員による全てボランティアで、各活動を地域のNPO・ボランティア等(公民館、教育委員会、老人クラブ、地域の施設等)連携しながら、地域委員や実行委員とも協働で活動を定期的に行っている。	地域連携センターBICS	地域連携センターBICS
立正大学	市民活動《街なか》フォーラム2007～市民と大学・学生が街で出会う～	平成19年11月23日(祝)、午前中は熊谷市商工会館大ホールで基調講演とパネルディスカッション、午後は鎌倉町の空店舗等4会場で、分科会(立正大の出張ゼミ等を市民団体と協働で実施)を行った。午後のテーマは、子育て支援、国際貢献、街おこし等。	立正大学・熊谷市・NPOくまがや共催・実行委員長、逸見稔	(特)NPOくまがや
立正大学	インターンシップ制度	NPOや企業にインターンシップ生として学生を派遣し単位化している。	キャリアサポートセンター	
立正大学	地域安全マップワークショップ(全国各地で開催)	地域安全マップのワークショップ、啓蒙活動を行う。全国各地で複数回実施。	文学部社会学科・小宮信夫教授	(特)地域安全マップ協会、(特)越谷NPOセンター、越谷防犯・防災ネット、大袋北小学校周辺地区連絡協議会、(特)子育てサポーター・チャオ等

大学名	イベント等名称	内容	担当組織等	NPO 等名
立正大学	地域力を高める これからの協働 一ファシリテータ育成テキスト作成	地域力を高めるこれからの協働一ファシリテータ育成テキスト（山口道昭等著、ぎょうせい刊）等のテキスト作成。市民、行政等主催の講習会開催。	法学部・山口道昭教授	自治体、NPO
立正大学	日光における二ホンジカと森林生態系の関係の実態把握	野外調査における市民環境教育とフィールドワーク指導	地球環境科学部環境システム学科・須田知樹専任講師	(特)アースウォッチジャパン
立正大学	立正大学 ORC 環境修復セミナー（複数回開催）	文部科学省ORC（オープンリサーチセンター）補助事業によるセミナーの実施。森林修復（場所：県民の森公園等、共同団体：森林サポータクラブ等）、流域管理・観察会（場所：野鳥の森公園、三ツ又沼ピオトープ、浅羽ピオトープ等、共同団体：荒川の自然を守る会、熊谷の環境を考える連絡会議、高麗川ふるさとの会）などの実施。	オープンリサーチセンター・田村俊和教授（センター長）	(特)森林サポータクラブ、(特)荒川の自然を守る会、熊谷の環境を考える連絡会議、高麗川ふるさとの会等
立正大学	熊谷うちわ祭り GIS/GPS システム構築・運営	うちわまつりで使用される 12 台の山車に GPS を搭載し、GIS でインターネット・携帯電話上で可視化・公開する。さらに、これにより、まつりに若者の興味を集め、地域についての愛着を持ってもらう。	産学官連携推進センター/オープンリサーチセンター・後藤真太郎教授	熊谷祇園会、(特)GIS パートナーシップ、(特)IKG コミュニティー、熊谷市、熊谷商工会議所、企業（NTT、NTT docomo、富士通等）
立正大学	エコミュージアム設立・運営支援・SNS 管理	新川エコミュージアム http://shinkawa-muse.net/ 、熊谷直実史跡エコミュージアム http://naozane-muse.net/ の構築・管理、関連の催事（熊谷直実 800 年忌記念祭り等）における学生動員支援を行う。また、関連する情報は、SNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）を通してブログに書き込まれるので、ブログの管理を行う。	地球環境科学部環境システム学科・後藤真太郎教授	熊谷の環境を考える連絡会議、(特)GIS パートナーシップ、(特)ピースファイブルクラブ、新川エコミュージアム研究会、直実大好き会、久下地域町内会、熊谷歌舞伎の会、熊谷市、荒川上流河川事務所等

大学名	イベント等名称	内容	担当組織等	NPO 等名
立正大学	子育てネットくまがや SNS 構築・管理	熊谷市内の子育て支援サークルの子育ての悩み相談、遊び場所についての情報などの集合知を共有できる GIS つきの SNS の構築・管理を行う。	地球環境科学部環境システム学科・後藤真太郎教授	子育てネット熊谷、子育て支援サークル (Hop Step Jump 等 25 団体)、熊谷市、なでしこ保育園 等
立正大学	荒川一斉水質調査・全国一斉水質調査	6 月の第一日曜日に荒川に関連する NPO、一般市民、行政が支流を含む荒川の水質をパックテストにより調査された結果を事務局に送付する。結果は立正大学の支援により GIS を用いてマップ化され、荒川水質マップとして印刷され、参加者、県内関連機関に配布される。同一日に全国一斉に同様の調査 (一部測定方法が異なる) を行い、事務局で取りまとめる。	オープンリサーチセンター・後藤真太郎教授	熊谷の環境を考える連絡会議、(特)荒川流域ネットワーク、(特)みずとみどり研究会、(特)秩父の環境を考える会、(特)荒川の自然を考える会等、県内環境保護団体、熊谷市、荒川上流河川事務所、国土交通省河川環境課等
立正大学	ひろえば街が好きになる運動	熊谷うちわ祭りの会場で発生するゴミを、住民参加により清掃し、特設会場に設置した事務所にゴミを運んでもらう運動を行う。一連の作業を学生に補助してもらう。	産官学連携推進センター	JT、環境省、熊谷市 等
立正大学	多摩川市民合同発表会	多摩川の自然保護についての市民、行政、研究者の発表と討論	地球環境科学部環境システム学科・渡辺泰徳教授	(特)みずとみどり研究会
立正大学	中学生によるヒートマップ作り	日常生活の中での温暖化につき、中学生にヒートマップ作りを指導し地球温暖化の見える化を行う。活動内容は学校の副教材として使用できるよう DVD ブックとして配布する。	地球環境科学部環境システム学科・福岡義隆教授	埼玉県、クリエイターズさいたま、県内中学校
立正大学	GIS に関する講習会 (複数回実施)	埼玉 GIS 普及推進研究会 (会長：後藤真太郎 立正大学教授)、埼玉大学、立正大学が連携し、GIS 普及に関する例会を毎月行う。	地球環境科学部環境システム学科・福岡義隆教授	埼玉県、県内自治体、埼玉 GIS 普及推進研究会、(特)GIS パートナースイップ、立正大学オープンリサーチセンター、埼玉大学

大学名	イベント等名称	内容	担当組織等	NPO 等名
立正大学	新川・子育てブログ&グーグルマップ作成セミナー	開催日：2007年11月15日 内容：子育てねっと http://kosodate-ooen.net/ 新川エコミュージアム http://shinkawa-muse.net/ などのブログの使い方、Googlemap でコンピュータで地図を作り、他人と共有する方法の研修。	地球環境科学部環境システム学科・後藤真太郎教授	(特)GIS パートナーシップ、熊谷の環境を考える連絡会議、タウンタウン熊谷、熊谷商工会議所
立正大学	オオムラサキ保護活動・越冬幼虫調査	嵐山町、滑川町におけるオオムラサキ生息環境を、GIS/リモートセンシングを用いて広域的に把握し、数値モデルを用いて潜在的な生息地域を抽出し、住民参加により生息地域の保全活動を行う。	地球環境科学部環境システム学科・後藤真太郎教授	(特)自然の会・オオムラサキ、東松山・環境市民の会、大妻嵐山中学校、滑川総合高校
立正大学	産学官連携セミナー	2008年3月15日開催予定 内容：熊谷市との連携プロジェクトでヒートアイランド対策を具体化するプロジェクト等を紹介する。	産学官連携推進センター	熊谷の環境を考える連絡会議、熊谷市、立正大学オープンリサーチセンター
立正大学	ナホトカ号油流出事故から10年シンポジウム「ふるさとの海を誰が守るのか？」	開催日：2007年7月8日 内容：1997年1月に日本海で発生したナホトカ号油流出事故からちょうど10年の節目を迎え、油流出事故に備えたリスク管理の重要性を考えることを目的とする。	地球環境科学部環境システム学科・後藤真太郎教授	日本環境災害情報センター(JEDIC)、(社)海上災害防止センター、IFAW(国際動物福祉基金)、(社)日本海難防止協会、(財)日本鳥類保護連盟、(財)日本野鳥の会、(NPO)野生動物救護獣医師協会、(NPO)油濁防除研究会
立正大学	シンポジウム油流出事故に備えたオホーツクの地域連携のために	開催日：2008年2月19日予定 内容：サハリン石油天然ガスプロジェクトの展開により発生頻度が高くなることが予測されるオホーツク沿岸都市での油流出事故に備えた官民の連携について2007年度完成させた地域緊急時計画に基づき考える。	地球環境科学部環境システム学科・後藤真太郎教授	オホーツクの環境を守る地域ネットワーク、北方圏国際シンポジウム実行委員会、(特)オホーツク・プラットホーム、紋別市、(社)海難防止協会

大学名	イベント等名称	内容	担当組織等	NPO 等名
立正大学	エコミュージアム研究会	開催日：2008年2月7日予定 内容：新川エコミュージアム、熊谷直実史跡エコミュージアムの事例を他地域のエコミュージアムと比較し、今後望まれる展開方法を議論する。	地球環境科学部環境システム学科・後藤真太郎教授	(特)日本エコミュージアム研究会、新川エコミュージアム研究会、(特)GISパートナーシップ、熊谷の環境を考える連絡会議、(特)ピースファイブルクラブ
立正大学	立正大学国際オープンセミナー「水環境の修復ー荒川からアジアへー」	開催日：2008年2月23日予定 内容：オープンリサーチセンター整備事業の一環として、自然再生事業について国際比較を行い、荒川における水環境の修復のあり方を議論する。	オープンリサーチセンター・田村俊和教授（センター長）	(特)荒川流域ネットワーク、(特)荒川クリーンエイド、(特)秩父の自然を考える会、(特)エコシティー志木、熊谷の環境を考える連絡会議、埼玉県、荒川上流河川事務所、埼玉県環境科学国際センター
立正大学	2007年度オオカミセミナー「オオカミ復活を考える」	2008年3月18日開催予定 内容：2007年1月に出版された『オオカミを放つ』（白水社）の筆者らを中心に、最新のオオカミ研究を紹介し、日本におけるオオカミ復活の是非を問う。プログラム後半に予定している対談／討論会では、オオカミ復活の根拠としての生態系論、およびトキやコウノトリなど先行事例を参考にした絶滅種復活という自然復元の一環としてのオオカミ復活論について、参加者も交えた自由な議論を展開する。	地球環境科学部環境システム学科・須田知樹専任講師	(特)日本オオカミ協会、野生生物保護学会、(特)アースウォッチジャパン、白水社
立正大学	住民参加型農業用水管理マニュアル作成（2003－2007）	農林水産省高度化事業の中で、農業用水周辺環境の保全のあり方、住民参加型管理について実証研究を通し、管理マニュアルを作成する。実証実験の過程でボランティアと協働している。	立正大学オープンリサーチセンター／地球環境科学部環境システム学科後藤真太郎教授／福岡義隆教授	農林水産省、埼玉県農林総合研究センター、愛知県、石川県、宮城県、農業工学研究所、東京大学、秋田県立大学、石川農業大学、東京農業大学、NPO

大学名	イベント等名称	内容	担当組織等	NPO 等名
立正大学	2007 年度環境 保全講習会	2008年3月22日開催予定 内容：人間の社会活動による自然 破壊、環境汚染についてコンサル タント従事者の研修を行う。	地球環境科学 部 環境シス テム学科 後 藤真太郎教授	(特)埼玉環境カ ウンセラー協会
早稲田大学	所沢キャンパス B 地区湿地保全 活動	「狭山丘陵でも最大の所沢キャン パス B 地区湿地（約3ha）の自然 環境を保全し、湿地の希少種の生 活や生物多様性を学生と市民の協 働によって守る」ことを目的とし、 ①湿地内の外来種駆除などの作業 ②湿地の生き物の調査 ③動植物 の生態を学ぶ講義 ④雑木林や湿 地の散策 ⑤参加者との懇親会 を行っている。	所沢キャンパ ス湿地保全活 動（WAVOC 公認プロジェ クト）担当： 森脇	早稲田大学自然 環境調査室

3 1・2以外の連携

大学名	内容
埼玉大学	<p>○「市民との共同研究会」＝社会貢献の一環として、地域が抱えている多様な課題を研究テーマとして市民の方に提起してもらい、市民と本学教員が共同で研究を行う。年1回、テーマを公募している。</p> <p>○市の国際交流協会主催で行われる各種イベントでは、市民ボランティアと大学（教員・日本人学生・外国人留学生）が協働し企画運営まで幅広く実施に関わっている。</p>
十文字学園女子大学	<ul style="list-style-type: none"> ・教員がNPO法人理事就任、NPO主催の研修の講師として協力。 ・NPO法人から、ゲストスピーカーとして授業に招く。 ・NPO法人に、実習・アルバイト・ボランティア学生受け入れを依頼。 ・NPOと教員で地域における研究会を企画・運営。 ・本学クラブのコースボランティア部は青年赤十字奉仕団に所属し、「日曜コロボックル」、板橋区地域の障がい者との交流、夏期・冬季献血キャンペーンへの参加、障がい者のスポーツ支援活動をしている。
聖学院大学	<p>キャンパス内に植樹した桜の苗木に、NPO（コミュニティ活動支援センター）の会員学生が交替で水やりのボランティアを行っている。</p>
日本工業大学	<p>(特)さわやか福祉の会きらりびとみやしろの助け合い活動に係る会員管理・活動管理に関するトータルシステムのバージョンアップ（Ver. 2）を情報工学科3年次実験授業「情報工学総合実験」において開発すると共に、同様の活動をしていて、システムの提供を希望している全国のNPO に対してネットを介して提供できるシステムの開発も進行している。</p>
文教大学	<p>地域で作った NPO などとのネットワークから、センターが相談機関として、地域のNPO や社会福祉法人などからの相談の受け、助言・支援などで対応。NPO などからは、センターの活動への協力、地域のリソースの紹介など、日常の活動の中で双方がお互いをリソースとして活用。</p>
文京学院大学	<p>外部のボランティア募集团体と学内のボランティア活動団体を地域連携センターB I C Sに登録してもらい、必要に応じてお互いの紹介を行い、学生のニーズと地域のニーズを結びつけながら多様な地域住民や団体と連携した活動をしている。</p>
立教大学	<p>「NPO 法人ゼファー池袋まちづくり」と関わり、アイポイント運動を推進。</p>
立正大学	<ul style="list-style-type: none"> ○品川区商店連合会、品川観光協会と「つまみ食いウォーク」、「まちづくり」シンポジウムを開催。 ○五反田商店街とのコラボレーション（ガイドブック作成、映画祭支援） ○五反田商圈のアンケート調査 ○内モンゴルホルチン沙漠植林事業（緑化ネットワーク NPO 法人主催、立正大学地球環境科学部事業（同事業は 2008 年度より正課実験科目として毎年開催）） ○熊谷市ヒートアイランド対策プロジェクト ○市民・子供向け環境教育メニューの作成 ○自治体向け ICT 版地域安全マップ、児童見守りシステムの導入支援
早稲田大学	<p>高尾の森づくりプロジェクトにおいては、特定非営利活動法人「森づくりフォーラム」等と連携するなど、その他のボランティアプロジェクトでも様々な団体等と関わっている。</p>